

科目名	生物学1			ナンバリング	BIO111	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	奈良武司	担当教員	久保田 耕司				

授業の概要	21世紀は生命科学の時代であり、ゲノムの解読と研究手法の進歩によって生命の理解が著しく進んだ。薬学教育における生物学は人体の基本的な仕組みを習得することを目的とするが、同時に、ニュース等で耳にする最新の生命科学技術(幹細胞治療や分子標的薬など)の基本的な概念や意義を理解するための基礎学力を身につけることが重要である。生物学1では、生物の基本属性である細胞の生物学を学習の柱として、細胞を構成する要素と細胞の主な機能を学ぶ。
到達目標	各単元のテーマの学習到達目標(SBOは薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応)を達成できる。また、特に以下についてはしっかり理解することを目標とする。 1. 原核生物と真核生物の共通点と相違点を説明できる。 2. タンパク質の構造と機能について説明できる。 3. 遺伝情報とその発現機構について説明できる。 4. 膜の構造と機能、および輸送について説明できる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	高校生物の教科書のうち、細胞生物学の領域を重点的に学ぶ。高校生物を未履修の者は特に主体的な学習を心がけること。
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】
	1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。
	○ 2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。
	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。
	○ 5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 各単元終了後に行なう小テストで、60%の正答率を得る。 2. 課題にきちんと取り組み、期限内に提出する。 3. 定期試験で60%の正答率を得る。 4. わからないことがわかり、それを解決するために必要な情報を集めることができる。	1. 各単元終了後に行なう小テストで、80%の正答率を得る。 2. 課題にきちんと取り組み、期限内に提出する。 3. 定期試験で80%の正答率を得る。 4. 自ら疑問を考え、それを解決するための情報の収集および分析ができる。 5. 得た知識を他人に説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					70%程度
小テスト・授業内レポート	○	○					20%程度
宿題・授業外レポート	○	○	○				10%程度
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	1. 単元ごとに小テストを実施し、次授業の冒頭で解説を行なう。 2. 振り返りおよび課題を期日内に提出し、各人に合わせた学習上のポイントを記した上で返却する。 3. 答案用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備しておく。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義の目的、目標、グループ学習の進め方を解説する。	
	第2回	生物の基本概念と基本構造	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:準-(6)-①-2
	第3回	原核生物と真核生物	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C8-(3)-①-1
	第4回	タンパク質の構造と機能	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(2)-③-1 SBO:C6-(2)-④-1
	第5回	酵素	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(3)-③-1
	第6回	複製:DNAの半保存的複製	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(2)-⑤-1
	第7回	転写:DNAからRNAへ	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(4)-④-1
	第8回	翻訳:RNAからタンパク質へ	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(4)-④-5
	第9回	ゲノムと遺伝子	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(4)-①-1,2
	第10回	生体膜	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(1)-①-1
	第11回	膜の物質輸送	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(3)-④-1
	第12回	タンパク質の輸送	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(3)-⑥-1
	第13回	小胞輸送	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(1)-①-2 SBO:C6-(3)-⑥-1
	第14回	細胞内消化	テーマに関する講義の後で、グループ内の討論により課題の解決を試み、チームとして一定の結論を導く。その結果を提示し、提示内容についてチーム間質疑応答・評価し合う。	SBO:C6-(3)-②-2
	第15回	生物学1のまとめ	生物学1で学んだ範囲についてグループ学習を行ない、理解が不足している領域を克服する。	
	試験	各単元終了後に小テストを実施する。定期試験として中間試験および期末試験を実施する。定期試験の結果が60点未満のものは、復習して再試験に備える。		
授業の進め方		1. 本講義はアクティブラーニング形式で行なう。具体的には、グループ単位で与えられた課題に取り組むと同時に、単元ごとの理解を各自進める。 2. 「生物学1」と「生物学演習1」を合わせて授業単位として、ひとつの単元を学ぶ。 3. IT教材を十分に活用しながら理解を深める		
授業外学習の指示		1. 講義の冒頭に、前回の単元の理解度を確認するための小テストを実施する。小テストでできなかった問題はその日のうちに復習する。 2. 講義の最後に、次回の単元の予習のためのプレテストを実施する。プレテストでできなかった問題を参考に、単元を予習する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	Essential細胞生物学原書第4版、南江堂、8640円、ISBN:978-4-524-26199-4
参考書	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録、数研出版、994円、ISBN:978-4-410-28145-7 ニューステージ新生物図表、浜島書店、845円、ISBN:978-4834340099
参考URLなど	
その他	高校生物の教科書があれば、それを参考に用いるとよい。